

片倉シルク記念館

ぶぎん地域経済研究所調査事業部 副部長兼主席研究員 藤坂 浩司

製糸業は、近代日本の発展を支えた代表的産業として知られています。製糸業が隆盛を極めた時代、業界を代表する企業を例えて、“東の片倉、西の郡是”と形容しました。このうち“東の片倉”は、長野県岡谷市を発祥とする片倉工業株式会社を指しますが、熊谷市にある「片倉シルク記念館」は、片倉工業が全国に所有していた64の製糸工場のうち最後の旧熊谷工場（旧称：石原工場）の跡地を利用して作られた、わが国の製糸業の歴史を学ぶことができる施設です。

■片倉工業最後の製糸場跡地に作られた施設

「片倉シルク記念館」は2000年11月、商業施設を備えた複合施設「片倉フィラチャー」としてオープンしました。“フィラチャー”とは英語で製糸業を意味し、かつてこの地に製糸工場があったことの証として名前が付けられたものです。

この製糸工場（以下、旧熊谷工場〈総面積3万4,197平方メートル約、1万345坪〉）は、1907年、信州片倉組（現、片倉工業）が、地元の三木原製糸場を事業買収して、片倉組石原製糸場に改名し操業を開始したことに遡ります。三木原製糸場は、熊谷の地元有志（三枝氏、青木氏、柿原氏）が、

埼玉県の製糸業発展を目的に共同出資して設立した製糸工場ですが、片倉工業の買収後は、「信州式五緒半沈操」と呼ばれる、繭をほぐしやすくする煮繭機^{しやくせんき}を多数、導入するなどして大規模な製糸の生産が行われてきました。

明治時代以降、埼玉県は群馬県と並んで器械製糸業の盛んな地域として知られるようになり、1880年代後半（明治20年代）になると本格的な発展を遂げました。熊谷は養蚕原料となる桑の栽培が盛んであったこと、そして、製糸業は生産の工程で大量の水を使うことから利根川、荒川水系に近い熊谷は製糸業に適した土地でした。やがて熊谷は、製糸業について県内で中心的な役割を果たすようになり、旧熊谷工場はその代表格として長年にわたり産業の発展に貢献してきました。しかし、製糸の世界に化学繊維が登場、普及するに



▲蔵造り倉庫の展示風景



メモリアルギャラリー▶



従い、繭を原料とする天然繊維の需要は減少してゆき、1994年12月31日に熊谷工場は操業を停止、同社の製糸業121年の歴史は幕を下ろしました。

■製糸ができるまでの当時の様子を展示

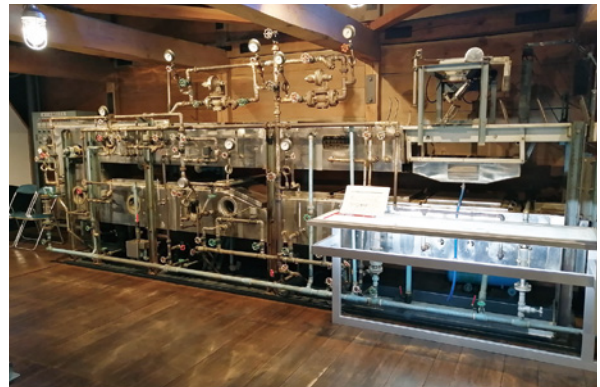
「片倉シルク記念館」は旧熊谷工場で使われていた貯繭倉庫（養蚕農家から購入した原料の繭を乾燥させて保管するための施設）を再利用しています。このうち東側に位置する第2号倉庫は、「蜂の巣倉庫」と呼ばれています。倉庫内に繭を貯蔵する縦穴が105個あり、その形状が蜂の巣に似ていることから名付けられました。この倉庫は、1936年に福島県郡山市の製糸工場で建築され使われていましたが、1965年に旧熊谷工場に移築しました。第2号倉庫内には、上族や壮蚕飼育といった当時の養蚕風景の様子や、養蚕に使われた各種道具などが展示されています。

もう1つの第4号倉庫は“蔵造り倉庫”と呼ばれ、1899年に建築された木造二階建ての繭貯蔵庫です。こちらは片倉シルク記念館の本館となっています。建物内は1階と2階に分かれていて、製糸工場で実際に使われていた各種製糸機械の展示をはじめ、工場内で従業員が着用した作業服や、片倉工業の歴代の経営者の紹介などを見ることができます。

多数の写真を活用したパネル展示やビデオ映像などを通して、実際に繭から生糸ができるまでの工程をつぶさに見ることができ、製糸業を知らない人でも興味を持って楽しく学ぶことができます。

■製糸機械の歴史を感じさせる

中でも目を引き付けるのは製糸業で使われた機械の数々です。例えば、煮繭機は、選別された繭を、温度管理しながら蒸したり煮たりを繰り返すことで、ほぐしやすい状態を作る機械ですが、シルク記念館には1896年創業の増澤商店が製作した「増澤式煮繭機」が展示されているほか、発明家、御法川直三郎氏の考案品を今井五介氏（片倉工業の創業家、片倉兼太郎氏の実弟で、同社2代目社長）の援助で開発した「御法川式多条繰糸機」が



▲旧熊谷工場で実際に使われていた煮繭機

保存されています。繰糸機は、繭糸を繰り一本の生糸を巻き取る機械ですが、当時の熊谷工場には御法川式多条繰糸機が500台設置されていました。「御法川式多条繰糸機」の他にも日産自動車の繊維機械事業部が製作した「日産自動繰糸機」など珍しい機械が展示されており、モノづくりの視点から製糸業の歴史を学ぶことができます。

また、シルク記念館本館1階には、旧熊谷工場の200分の1のスケールモデルが展示されています。製糸工場を中心に貯繭倉庫や、蚕の卵を孵化させる催青室^{さいせいしつ}、工場へ蒸気を送る汽缶場^{きかんば}などの付帯設備、従業員の寮や社宅、プールなど、操業当時の様子を窺い知ることができます。片倉シルク記念館は、わが国の製糸業の歴史をつぶさに見ることができる貴重な施設で、2007年11月、政府から「近代化産業遺産」に認定されました。本館の見学は予約不要ですが、希望者には少人数から館長が案内をして丁寧な説明が受けられます。休館日は毎週月曜日、火曜日です。

片倉シルク記念館 施設案内

- 所在地：熊谷市本石二丁目 135 番地
(イオン熊谷店敷地内)
- 開館時間：10：00～17：00 (入館 16：30)
- 休館日：月曜および火曜(臨時休業有)
- 入館料：無料
- 交通案内：JR 高崎線熊谷駅下車 徒歩 15 分
秩父鉄道上熊谷駅下車 徒歩 7 分